

やすらぎ通信

第80号（平成29年7月1日） 発行：大阪急性期・総合医療センター

文月（ふみづき）



（大阪急性期・総合医療センターにおける七夕の笹飾り）

<目次>

季節を愛でる	・・・P.1	掲示板	・・・P.6
今月・来月の催し	・・・P.2	今月の風景	・・・P.8
管理栄養士のコーナー	・・・P.4	地域の医療機関の皆様へ	・・・P.9
今月のきらりさん	・・・P.5	編集後記	・・・P.10

星合の空（ほしあいのそら）。七夕の日（7月7日）の夜空をこのように呼ぶのだそうです。年に一度、織姫（こと座のベガ）と彦星（わし座のアルタイル）が天の川を渡って会うことを許される日です。2つの星の逢瀬を祈りながら空を見上げると、今宵は、良い夢が見られるのではと期待してしまいます。

平安時代、夢には特別な意味がありました。当時夢は、夢に現れる人物が、夢を見る人物を思うから夢に見ると信じられていたそうです。すなわち、恋する相手が自分の夢の中にたくさん出てくるほど、相手も自分のことが好きなのだと思われていたのです。我々の地元住吉でも、夢にまつわる和歌が詠まれています。「住の江の岸による波 よるさへや 夢の通ひ路 人めよくらむ（藤原敏行朝臣）」この和歌は、『古今集』に納められているものですが、百人一首でなじみのある方も多いのではないでしょうか。「あの住の江の岸に寄せる波の『よる』ではないけれど、夜でさえも夢の通り路を通して逢えないのは、あの人が夢の中でさえ、人目を避けているからでしょうか。」というような意味になるのでしょうか。「住の江」は、摂津国住吉（せつつのくにすみよし）、現在の住吉区の海岸のことで、松の名所として知られていました。住吉区は、上町台地と我孫子台地の二つの丘陵からなる高台にありますが、この丘陵の中間の千躰、沢之町あたりは、大昔は海辺であったと言われていました。そういえば、今も立派な松林が見られるところがありますね。「松」に「待つ」を掛けて詠まれることが多く、「待つ恋」を連想させるために「住の江」が用いられたのではないかとされています。

さて、冒頭でご紹介した七夕にまつわる俳句は、松尾芭蕉の作です。「織姫と彦星は逢瀬を楽しみに『有頂天』だったのに、雨が降って会えなくなってしまいましたね。『雨中天』といったところですね。」というような解釈でしょうか。芭蕉24歳の若き日に「雨中天」という造語を使ってユーモラスに詠まれたちょっぴり意地悪？な俳句です。

この時期、「七夕」や「天の川」と名の付く和菓子が多くのお店にお目見えします。どれも、美しく食べるのがもったいないくらいです。「鮎」というお菓子もありますね。求肥を鮎に模ったカステラ生地で包んだお菓子です。これまた、頭から食べるか、尾から食べるか悩むお菓子です。

毎年病院では、病棟や外来（約20か所）に職員手作りの笹飾りを置いています。来院された方は、どなたでも短冊に願いを書いて飾っていただけます。まっすぐに伸びる笹は、願い事を天にまで届けてくれそうですね。「おじいちゃんのびょうきが、はやくよくなりますように」。お見舞いに来られた幼いお孫さんが書かれたのでしょうか。力強く丁寧に書かれた文字からは、願いの深さが伝わってきます。先生や看護師さんや病院のみんなで力を合わせて、おじいちゃんが早く良くなれるように頑張るからねと、伝えたい気持ちで一杯になりました。



今月・来月の催し

【第24回病院ギャラリー企画展 『田中 一光 ポスター展』】

開催期間 6月19日（月）～9月15日（金）

展示場所 本館2階 病院ギャラリー

展示作品 26作品

本企画展は、大阪府立江之子島文化芸術創造センターのご協力を得て実施しています。



【すこやかセミナー】

「脳の病気やケガによる『高次脳機能障がい』をご存じですか？」

日時 7月13日（木） 午後2時～3時

場所 本館3階 保健教室

講師 リハビリテーション科副部長 山中 緑

参加費 無料

【第47回 万代・夢寄席「太神楽」】

日時 7月18日（火） 午後2時～3時

場所 本館3階 講堂

出演 豊来家 玉之助 氏

入場料 無料



【相愛大学連携 第72回 外来糖尿病教室】

知って得する！糖尿病との付き合い方】

日時 7月26日（水） 午後2時～3時

場所 本館1階 アトリウム

内容 糖尿病の薬 ～体調が悪い時の対応について～

糖尿病内分泌内科医師 畑 雅久

運動療法について 理学療法士 長島 健太郎

やさい！！ 管理栄養士 笠井 香織

参加費 無料

【すこやかセミナー「要介護にならないために

～知っておきたい慢性腎臓病とサルコペニア・フレイル～】

日 時 7月28日（金） 午前11時～12時
場 所 本館3階 講堂
講 師 腎臓・高血圧内科主任部長 林 晃正
参加費 無料



【第48回 万代・夢寄席「三代目桂春団治一門会」】

日 時 7月31日（月） 午後2時～3時
場 所 本館3階 講堂
出 演 桂 壱之輔 氏、桂 治門 氏
入場料 無料

【第55回相愛大学連携コンサート「声楽」】

日 時 8月23日（水） 午後2時～3時
場 所 本館3階 講堂
出 演 井上 結衣 氏（ソプラノ）他
入場料 無料



【すこやかセミナー「ほっておけない頭痛」】

日 時 8月25日（金） 午前11時～12時
場 所 本館3階 講堂
講 師 脳神経外科副部長 西口 充久
参加費 無料

【作品展（コスモス会）の開催と作品の募集について】

今年も当センターとコスモス会の共催による作品展を10月30日から11月1日の間、本館3階講堂で開催する予定です。つきましては、出展作品を下記のとおり募集いたしますので、皆さん奮ってご応募ください。

応募資格 患者さんとその家族及び病院関係者
応募方法 出展ご希望の方は、当センター総務・人事グループへお問い合わせください。（連絡先：06-6692-1201 内線2313）
応募作品例 絵画、写真、書道、手芸ほか
作品受付日 10月30日（月）午前9時～10時
作品返却日 11月1日（水）午後4時～5時

～ちょっとおいしい話～

梅雨が明けるといよいよ夏本番ですね。今回は、きゅうりを使った献立「きゅうりといかの炒め物」をご紹介します。
スーパーなどで年中見かけるきゅうりですが、夏が旬の野菜になります。サラダなど生食が一般的ですが、炒めても美味しくいただけます。

◇ 材料 ◇ (2人分)

・いか	200g
・きゅうり	2本
・にんにく	1かけ
・花かつお	適量
・ごま油	小さじ1
・しょうゆ	小さじ1
・酒	小さじ1



(1人分) エネルギー:133kcal たんぱく質:21.2g 脂質:3.0g 食塩相当量:0.9g

◇ 作り方 ◇

- ① きゅうりは縦半分に切り 5mm 程度のななめ切りにする。
- ② にんにくはみじん切り、いかは食べやすい大きさに切っておく。
- ③ フライパンにごま油を熱し、にんにく、いか、きゅうりを炒める。
(強火でサッと炒めるのがポイントです。)
- ④ 酒、しょうゆで味付けする。
- ⑤ お皿に盛り、花かつおを上からかけたらできあがり。



きゅうりは水分が多く利尿作用も高い夏野菜です。
ツヤとハリがあり、イボが痛いくらいにチクッとするものが新鮮な証拠。
曲がり味に影響はありませんが、一本の太さが適度で均一な方が味が良いと言われています。
過ぎるものは種が多くて味が薄くなります。
また表面の皮にシワがあったり手で押した時にフカフカ感のあるきゅうりは水分が蒸発しているため鮮度が失われていることが多いようです。

管理栄養士 竹田由美子

今月のきらりさん

自分の持ち味を生かした看護、すなわち“きらりと光る看護”を行っている当センターの看護師を紹介させていただくコーナーです。

12階東病棟 鶴飼順子看護師長

私が所属する12階東病棟を紹介させていただきます。

12階東病棟はリハビリテーション科・障がい者病棟です。

病棟には、突然の事故で車いす生活を余儀なくされた方や、神経難病のため、徐々に身体の機能が衰えてくる方など、たくさんの不安や苦痛を抱えながら日常生活を送られている方が多く入院されています。そのような患者さんやご家族に、少しでも安心して、希望を持った生活を送っていただけるように、私たち病棟スタッフは、日夜奮闘をしております。寝たきりの予防のため、車いすに移乗していただくにも、少し技術がいります。また、残された身体の機能をできるだけ活かせるように、日常生活のさまざまな場面での援助を通して、働きかけさせていただいています。退院に向けては、在宅で人工呼吸器を使用する方や、胃ろうから食事をする方なども多く、医師をはじめ、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、医療相談員、難病センター支援看護師など、たくさんの職種の方々と連携して、地域の支援者のみなさんに繋ぐ重要な役割を担っています。

ここで一つNEWSです。今年4月から、ロボットスーツ（HAL）によるリハビリテーションが始まりました。疾患は特定されていますが、歩行障害のある患者さんに対して、実施させていただいています。HALは、装着者の「歩きたい」という意思を感知し、状態に合わせて歩行のサポートをします。効果としては、良い歩行感覚を呼び覚ますことで、歩行距離が伸びる、歩行の姿勢が良くなるなどが期待されます。このHALに関心を持ってくださった方は、当センターホームページをご覧ください。どうか、リハビリテーション科外来まで、お問い合わせください。



【公共交通機関ご利用のお願い】

大阪府市共同住吉母子医療センター（仮称）の建設工事に伴い、南側平面駐車場を閉鎖し、中央館南側の立体駐車場及び北側駐車場をご利用いただいております。

駐車スペースが限られるため、入庫するまでに時間がかかる場合があります。

大変ご不便をおかけいたしますが、来院の際には余裕をもってお越しいただくか、公共交通機関をご利用いただきますようお願いいたします。

(URL) <http://www.gh.opho.jp/access.html>

【ボランティア活動のお知らせ】

当センターでは、採血室受付や図書コーナー、入院時の病棟への案内、看護学生のボランティアやクリニックラウンの訪問を受け入れるとともに、リハビリ病棟の長期入院患者さんを対象に、ハンドマッサージ（大阪府鍼灸マッサージ師会の協力）や理髪ボランティア（近隣理髪店の協力）、ピアサポートを実施しています。また、看護学生や保育学生が話し相手や遊び相手のボランティアをしています。

これらの活動状況は、当センターホームページで紹介していますので、是非ご覧ください。また、ボランティアを随時募集していますので、お問い合わせください。

(URL) <http://www.gh.opho.jp/recruit/10.html>

【「医療相談」コールセンターのご利用を ～地域医療連携センター～】

患者さんやご家族などからの医療や病院利用に関するご相談に、看護師が電話で応じさせていただく「医療相談」コールセンターを開設運用しております。是非お気軽にご利用ください。

電話番号 06-6692-2800 （専用電話回線）

06-6692-2801 （専用電話回線）

相談日時 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時

（年末年始、土・日・祝日除く）

相談対象 医療相談を希望されるご本人若しくはご家族等

相談員 看護師

【診察予約変更センター 9診療科において

診察の予約日・時間の変更を電話で受け付けています！】

当センターでは、下記の9診療科を対象に、電話で診察時間の予約の変更ができるよう「診察予約変更センター」を設置しています。是非、積極的にご活用ください。なお、このサービスは初診に関しては行っておりませんので、ご注意ください。よろしくお願いいたします。

電話番号 06-6692-1201 (代表) にダイヤルして
「予約変更センター」と言ってください。
受付時間 午後3時～午後5時(平日のみ)
対象診療科 呼吸器内科 消化器内科 糖尿病内分泌内科
皮膚科 形成外科 腎臓・高血圧内科 神経内科
脳神経外科 耳鼻咽喉・頭頸部外科

【入院治療費や外来での検査費用の

概算を予めお知らせするサービスをしています】

当センターでは、入退院センターにおきまして、ご入院申し込み時に予め標準的な治療を行った場合の概算費用、医療・福祉相談コーナーなどでCT、MRI、RI、エコー検査など検査の概算費用をお知らせするサービスを行っています。

【医療費の支払いはキャッシュカードでできます！】

当センターの医療費自動精算機は、デビットカード対応となっておりますので、ほとんどの金融機関のキャッシュカードでお支払いができます。引き落としの手数料は不要ですので大変便利です。是非ご利用ください。

なお、一般のクレジットカードでのお支払いもできます。

【Facebook ページ開設のお知らせ】

当センターでは、公式 Facebook ページを開設しております。Facebook のアカウントをお持ちでない方でも、ご覧いただけます。

(URL) <https://www.facebook.com/osakageneralmedicalcenter>

※スマートフォンでご覧になる場合は、右のQRコードをご利用ください。



【やすらぎ通信はメルマガで！】

「やすらぎ通信」は、メルマガでも配信しております。ご希望の方は、当センターホームページの「メールマガジン申込」からアドレスを登録していただきますようお願いいたします。なお、ホームページの検索は、「大阪急性期・総合医療センター」にて可能です。

今月の風景



【コメント】

ここは、奈良県吉野郡吉野町の「窪垣内（くぼがいと）」の景色です。実はここ窪垣内の集落には、犬を飼う家がありません。その由来は、壬申の乱に遡ります。大海人皇子（後の天武天皇）と大友皇子が、天智天皇の後継をめぐって争いになり、大海人皇子が吉野に逃げ込んできました。吉野川の川べりで助けを求められた村人は、川舟を逆さにして大海人皇子を隠しましたが、追いかけてきた犬が匂いをかぎつけ吠えるので、村人がその犬を殺してしまいました。それ以来、窪垣内では犬を飼うと災いがあるといわれ、今でも犬を飼う家がないということです。

（笹部 夏穂 氏撮影「窪垣内（くぼがいと）」（撮影地：奈良県吉野郡吉野町）

地域の医療機関の皆様へ

【小児科の診療のご案内】

当センター小児科に日頃からご指導ご鞭撻いただき、誠にありがとうございます。小児科は、2008年4月に小児医療センターとなり、2009年7月にNICUを開設し、地域小児医療連携の中で少しずつ入院患者さんを増やしてまいりました（図1）。そして、敷地内に新棟の建設が急ピッチで進み、2018年4月には大阪府市共同住吉母子医療センター（仮称）が開院する予定です。当小児科は地域小児医療の中で2つの大きな方針で診療を行っております。

24時間体制の小児科診療

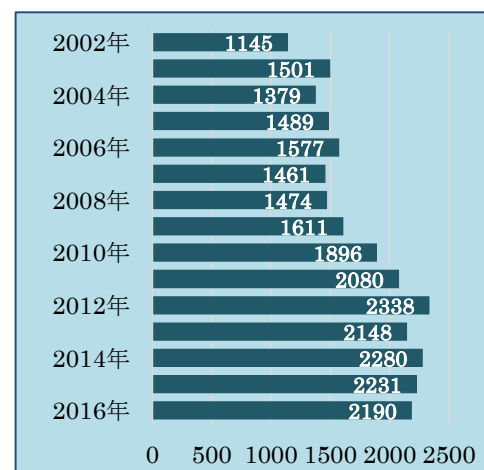
地域医療機関、休日急病診療所及び救急隊からの患者さんを連日24時間受け入れています。小児科ホットラインにより、小児科医が紹介元医療機関や救急隊と直接連絡をとり、患者さんのスムーズな受け入れを行っています。また、地域の診療所との医療連携をよりスムーズに行うために、『小児科休日・夜間病診連携カード』（図2）を使用し、休日・夜間の患者さんの病状悪化時に対応しています。

地域周産期NICU

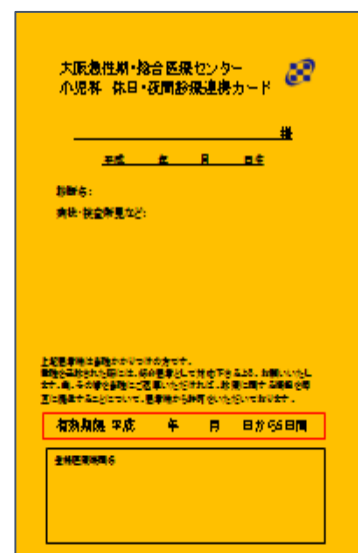
在胎30週以上、体重1,200g以上の早産児、低出生体重児を受け入れています。特に、当センター産婦人科では合併症妊婦のお産を行い、合併症妊婦から出生した新生児のケアをNICUで行っております。今後とも、患者さんのご紹介をお願いいたします。

さて、7月20日に当センターと阪南6区医師会共催による病診連携研修会を開催します。大阪大学小児科学教授 大園恵一先生をお招きし、『新しくなったビタミンD欠乏症の診断と治療』に関してのご講演をいただきます。また、当センターの丸山医長から『当センターにおける子ども虐待の取り組み』、高野から『府市共同住吉母子医療センターの地域小児医療における役割』について発表させていただきます。大阪府市共同住吉母子医療センター（仮称）のご案内もさせていただきますと考えています。

奮ってのご参加をお待ちしております。



（図1）当センター小児科入院患者数



（図2）

小児科休日・夜間診療連携カード

小児科部長 高野 智子

【病診連携研修会～小児科ネットワーク～のお知らせ】

日 時 7月20日(木) 午後6時20分～8時30分

場 所 天王寺都ホテル 6階「吉野の間」

○一般演題

講演1 「当センターにおける子ども虐待への取り組み」

小児科医長 丸山 朋子

講演2 「府市共同住吉母子医療センターの地域小児医療における役割」

小児科部長 高野 智子

○特別講演

「新しくなったビタミンD欠乏症の診断と治療」

大阪大学大学院医学系研究科 小児科学 教授 大藪 恵一 先生

編集後記

梅雨が明けるといよいよ夏本番ですね。日が落ちてもうだるような暑い日には、川床でのディナーを楽しみたいものです。京都では、鴨川・貴船・高雄の川床が有名ですが、特に貴船の川床は、川の真上に栈敷が敷かれており、川のせせらぎを聞きながら食事を楽しめるそうです。

<お願い>

読者の皆様からも、今後の表紙と「今月の風景」を飾る写真の投稿をお待ちしております。ご投稿いただける方は下記宛先までお送りください。

【宛先】 kyuseisogo@opho.jp

【注意事項】

- ・投稿写真はご自分で撮影したオリジナルの作品に限ります。
- ・タイトル、撮影日時、場所についてのコメントをメール本文に記載ください。
- ・作品は著作権、肖像権を侵害するおそれのないものに限ります。

当センターは、当センターが「希望の医療空間」「よろこびの医療空間」「やすらぎの医療空間」となるよう日々努力しています。